

死刑事件から私たちが学ぶこと

死刑は‘答え’か--? 宮崎一家3人殺害事件から考える私たちの社会のこれから

2010年3月1日、宮崎市内の住宅で、その家に住む一家3人が殺害される事件が発生しました。

妻(当時24歳)、長男(当時生後5ヶ月)、義母(当時50歳)を殺害したとして逮捕された男性(当時22歳)は、宮崎の裁判員裁判で死刑判決を受け、2014年10月16日上告が棄却され、確定死刑囚となりました。

世間を震撼させる‘凶悪’事件はいまも後を絶たず、死刑執行は続いています。

どうして事件に至ったのか、どうすれば事件を防げていたのか、どうすれば今後同様の事件を防げるのか--
そうした分析は十分になされているでしょうか。

事件を起こした人間を社会から抹殺することで、私たちは安心安全を手に入れているのでしょうか。

死刑は‘答え’か--?

宮崎一家3人殺害事件を中心に、死刑と私たちの社会のこれからについて、みなさんと一緒に考えてみたいと思います。

●パネルディスカッション●

池谷孝司(共同通信社宮崎支局長)

岩橋英世(日弁連死刑廃止検討委員会事務局次長)

黒原智宏(宮崎一家3人殺害事件辩护人)

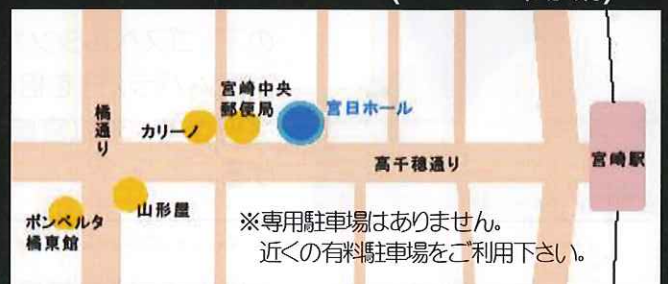
森正行(牧師・宮崎希望教会)

2015年8月1日(土)

14:00 ~ 16:30(13:30 開場)

宮日ホール 宮崎市高千穂通 1-1-33 宮日会館 11F

参加自由・入場無料



●池谷孝司 いけたにたかし●

1965年奈良県出身。1988年に共同通信社入社。松江支局、広島支局、大阪社会部を経て、1995年から本社社会部で教育班や東京地検を担当。大阪社会部次長、本社社会部次長を経て、2014年7月から宮崎支局長。教育や若者関係、少年事件などの取材を続けている。2013年に大阪・姉妹刺殺事件取材してまとめた編著「死刑でいいですー孤立が生んだ二つの殺人」(共同通信社、後に新潮文庫)を出版。他の著書に「ルポ 子どもの貧困連鎖ー教育現場のSOSを追って」(光文社)、「スクールセクハラーなぜ教師のわいせつ犯罪は繰り返されるのか」(幻冬舎)がある。



●岩橋英世 いわはしひでよ●

1959年大分県出身。九州大学卒業後、理科・数学の塾講師を経て2003年に弁護士登録(福岡県弁護士会所属)。行政問題委員会委員長、九弁連死刑廃止検討PT委員長、日弁連死刑廃止検討委員会事務局次長。中国残留孤児訴訟、カネミ油症新認定訴訟、ホームレス問題などの人権問題に関わる。NPO法人福岡県就労支援事業者機構監事、更生保護法人福正会理事。日弁連の死刑廃止検討委員会の前身から死刑問題に関わり、ノルウェー視察の際、故ニルス・クリスティ氏の教示を受ける。



●黒原智宏 くろはらともひろ●

1973年宮崎県出身。1997年3月一橋大学法学部卒業、1999年3月東京大学大学院修了、2006年弁護士登録。宮崎県弁護士会所属。2010年宮崎一家3人殺害事件弁護人の一人。現在、宮崎市内で弁護士法人グローバル綜合法律事務所代表として、民事事件、刑事事件、行政事件等数多く手掛けている。日弁連死刑廃止検討委員会事務局次長。



●森正行 もりまさゆき●

1961年兵庫県西宮出身。1992年に日本イエス・キリスト教団所属。岡山・岡南教会、副牧師を経て、1995年から宮崎・宮崎希望教会、担当牧師になり現在に至る。宮崎県民クリスマスにて県内諸教会協力の下、ゴスペルシンガー「レーナ・マリア」、元やくざのクリスチャン「ミッション・バラバ」を招き、クリスマスイベント活動にも従事。2006年から今日まで、6名(宮崎は3名)の死刑判決を受けた拘置者と交流を続ける。

